

ツヅピスキアブ



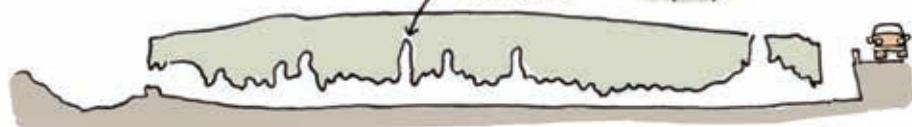
大原南公園内に位置するツヅピスキアブは、市内では最大規模の横穴洞穴です。この洞穴は、約数10万年前の海中の貝やサンゴなどの堆積物が、地殻変動や海水面変動で隆起して陸地になった後、雨水などによる浸食作用によって形成されたものと推測されています。城辺地区のアブチャヤー(仲原洞穴)、上野地区のピンザアブとともに古い時代の洞穴と考えられています。



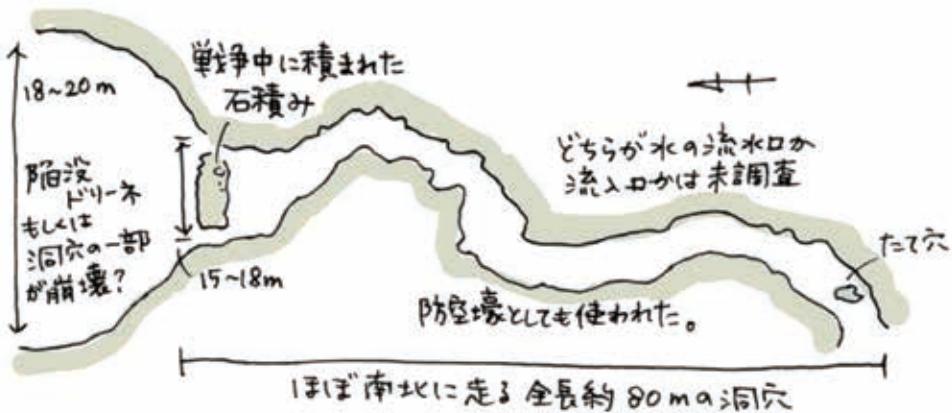
「ツヅピスキアブ」=「頂上付近を貫く洞穴」



【断面図】



【平面図】



馬場団地の「馬場」って？

いまの市営馬場団地付近は「下里馬場」と呼ばれた、宮古で唯一の競馬場がありました。競馬場といつても、速く走ることを競い合う競馬ではなく、側対歩で、定められた直線コースをいかに美しく優雅に馬を歩かせるかを競う競馬でした。1697(康熙36)年に首里王府から派遣された在番の友寄親雲が作らせたもので、いわば士族のための競馬場でした。

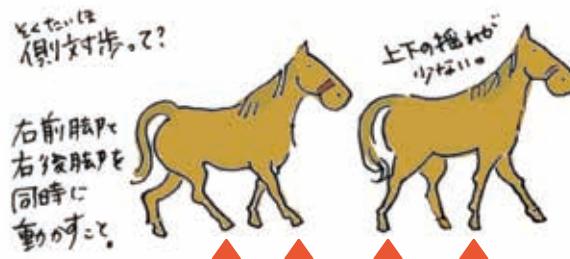
明治になって近代化が進むと、士族は弱体化し、琉球競馬も疲れています。馬場は周辺の原野を切り開いて「宮古郡運動場」として再開発され、陸上競技大会をはじめとする郡規模で開催する催し物会場として転用されました。

1908(明治41)年、特別町村制の施行によって、これまでの間切から町村に生まれ変わります。

初代平良村長に選任された仲松恵知は、この下里馬場で平良村創立式を執り行いました。

戦後、発展目覚ましい平良市は、1967(昭和42)年に旧馬場の再々開発に着手します。宮古で初めてとなる公営住宅団地を建設し、住宅難の解消を図りました。それが現在の市営馬場団地です。

※宮古では士族以外の競馬はかたく禁じられていましたが、1894(明治27)年、人頭税廃止が決定したことに歓喜した農民たちが、鏡原の地で盛大な祝宴を開き、初めての農民による競馬も催されました。それ以後、島内では昭和初期頃まで競馬が盛んに催され、鏡原の馬場をはじめとして各所に馬場が設けられました。現在、鏡原馬場跡は宮古島市指定史跡に指定され、いまも当時の審判台が残されています。



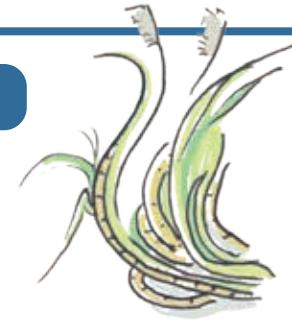
宮古のサトウキビと城間正安と人頭税

1881(明治14)年、下里のヨシキ底に宮古で初めてサトウキビが植えつけられ、1883年には初の黒糖が製造されました。

1884年に、のちに人頭税廃止運動に心血を注ぐことになる城間正安が製糖技師として赴任してきましたが、当時、宮古では人頭税がいまだ続いており、納税の対象にならないサトウキビの生産は禁止されていました。

1888年、甘蔗栽培制限令の解除によってようやくサトウキビの生産ができるようになりました。正安による製糖の指導も行われますが、農民たちは関心を示しません。理由は人頭税の負担が大きいえに、出荷したサトウキビの代金が農民に支払われておらず、サトウキビを作っても収入にならないために反発していました。

それを知った正安は蔵元などと交渉し、砂糖で税を納められるようにして、製糖用の機具を無償で貸すことを認めてもらい、ようやく宮古でもサトウキビの生産が本格的に始められました。



しかし、依然として人頭税が重くのしかかり、農民の生活はいつこうに楽になりません。前年から続く飢餓も加わり、農民たちは負担軽減の嘆願をしますが、成果に結びつきませんでした。

そんな中、新潟県出身の中村十作が宮古島へ来島します。そして正安と知り合った十作は、困窮する農民の姿を知り、やがて人頭税廃止運動に傾倒していきます。その後、十作と正安らの根気強い取り組みによって、1895年に人頭税の廃止が国会で採択され、1903年、1637年から続いた人頭税がようやく廃止されました。

人頭税廃止によって自由に商売ができるようになった宮古は大きく発展し、サトウキビの生産も徐々に増えています。

現在の宮古島のサトウキビ生産量は年間約30~40万トンほどで、沖縄県内の総生産量の40パーセントを占め、県内最大のサトウキビ生産地域となっています。

平良南

みね こうえん せき ひ しゅうごうじゅうたく
カママ嶺公園は石碑の集合住宅？！

この辺りは蒲間嶺と呼ばれ、木々が生い茂る広大な丘陵でしたが、1976(昭和51)年に公園に生まれ変わりました。以来、長く市民の憩いの場となっています。高台にあるため、天気の良い日は宮古の島全てを見るることができます。また敷地内には様々な石碑が立ち並び、宮古の文化の一端を覗くことができます。



ドイツ皇帝博愛記念碑
レプリカ(1972)
建碑 100 年記念祭の際に建立。



博愛 公爵近衛文麿書(1977)
ドイツ商船遭難にまつわる碑。



宮古島 6島
全てが見渡せる

展望台 &
防災備蓄倉庫

「風に乗る ほかなし島の はぐれ鷹」
平良雅景句碑(2009)
鳳作の句碑の建立に尽力した人物。

島燃ゆる…情熱波紋 とどけこの想い!!
(1993) 日本青年会議所沖縄地区大会記念碑。



シーサーの滑り台は子どもたちに大人気

平良南

グラウンドゴルフ
ぱっしらいん宮古島コース
南部忠平杯グラウンド・
ゴルフ大会に由来。

南部忠平氏を讃える碑(1989)
日本グラウンドゴルフ協会の
初代会長を讃える碑。



とうがにあやぐ 歌碑(2013)
古くから歌い継がれる宮古の
代表的な歌の碑。



非戦の誓い(2007)
「日本国憲法 第九条」を記した碑。

愛と和平(2023)
台湾出兵のきっかけとなった牡丹社
事件の加害者と被害者の和解の象徴
として台湾から寄贈された碑。

「蒼海へ 鷹を放ちし 神の島」
山田弘子 句碑(2005)

「神々の 高さに 鷹の 光りをり」
山田佳乃 句碑(2015)



愛と和平

みやこ

宮古のクイチャー



クイチャーは宮古各地に伝承されている集団舞踊で、人々の祈りから始まったといわれる伝統芸能です。

豊年祭や雨乞いなどの祭祀として、また娯楽として、集落ごとに生き生きと踊られてきました。野外で男女が輪になり、大地を踏みしめ、皆で声をあわせて歌い踊ることから、「くい(声)を合わせる(チャー)」と呼ばれています。歌は本来、楽器を使わず、豊穣を祈る歌や雨乞いの歌、生活や労働の悲しみや喜びなど、多彩多様な内容が謳われています。

円の内側を向いて

漲水のクイチャー

漲水のクイチャーは比較的新しいクイチャーで、人頭税廃止の請願運動に上京した人々を迎えるために作られたと言われています。歌詞は人頭税の辛さを歌っており、当時の生活を垣間見ることができます。

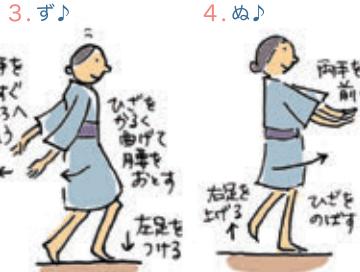
1. はり♪



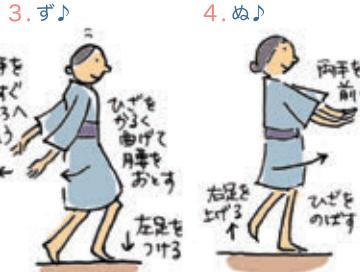
2. み♪



3. ず♪



4. む♪



5. う♪



×6回

6. イヤサッサ(かけ声)♪

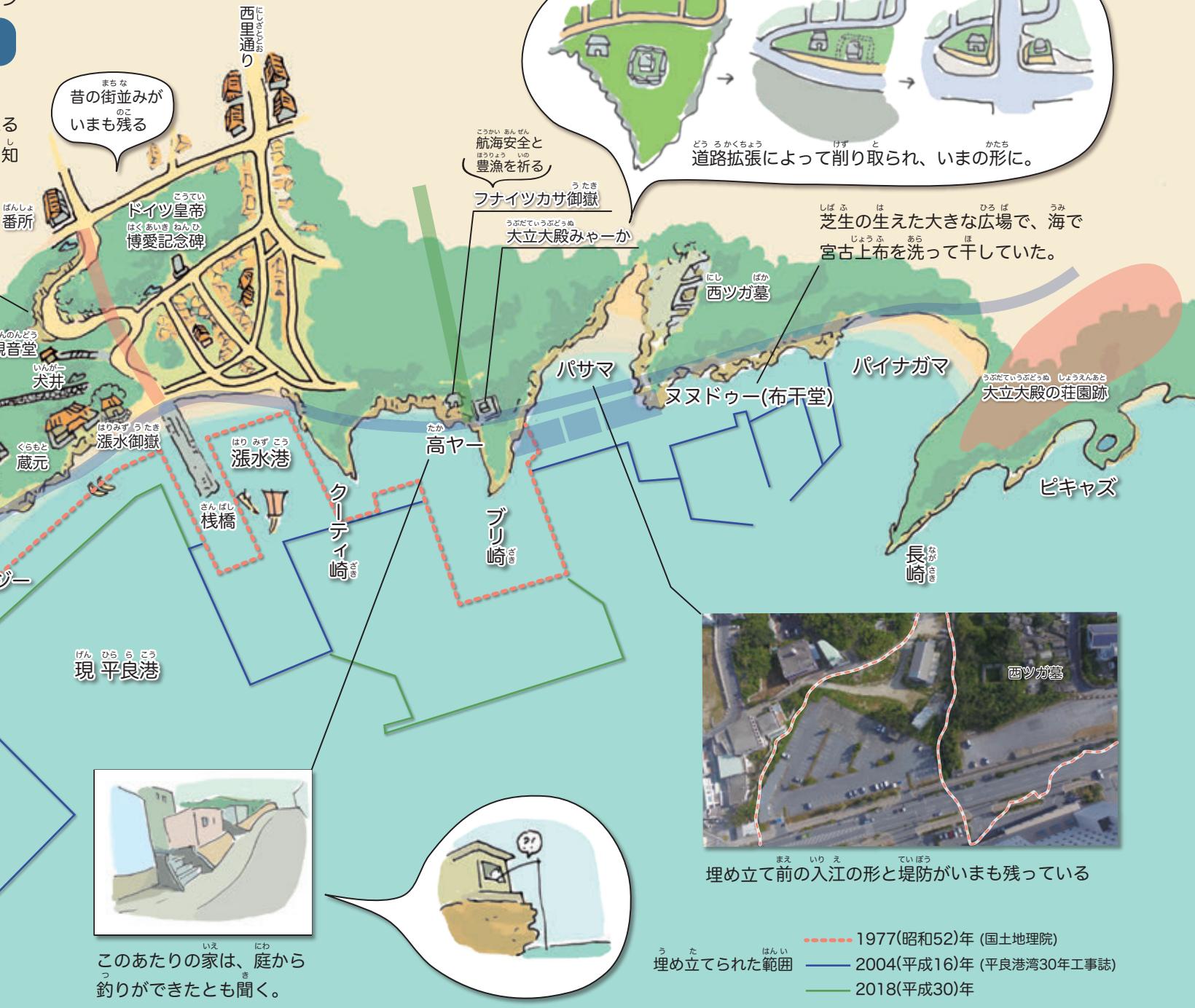


むかしの海岸線を歩いてみよう

埋め立てでほとんど面影がないように見える
まちなみも、よく観察をすると、昔の様子を知
ることのできる場所がいくつかあります。



昔は急崖をカーブを描きながら緩やかに登っていた。



ピキヤズ



ピキヤズは、下地島の「通り池」のような、規模の小さい陥没ドリーネです。きれいな円形の穴が開き、アーチ状の横穴で海と繋がっています。市内の降り井で失くした木桶がピキヤズで見つかったという伝承があり、「地下で水脈(潮)が繋がっている=ピキヤズ」が名前の由来だと言われています。また、大立大殿と空広(のちの仲宗根豊見親)が初めて出会った場所とされています。

うぶだていうぶどうぬ すらびゅう で あ
大立大殿と空広の出会い

14世紀末から15世紀にかけて平良を拠点としていた、与那霸勢頭豊見親の孫、大立大殿は、父の泰川大殿が重い病のために隠居し、ふたりの兄も早くに亡くなつたため、家督を継いで首長として宮古を治めていました。

ある日、大殿は部下を伴ってピキヤズへ漁に行く途中、畠で使用人たちに見事な指揮をしている子どもを見かけました。

その子どもに興味を持った大殿は声をかけました。

「おまえはどこの家の子か?」
「わたしねまうぶうやようし
「私は根間の大親の養子で、
空広という者です」

「年はいくつか?」

「7歳になります」
先ほどの指揮ぶりといい、この堂々とした受け答えといい、面白い子どもに出会ったと喜んだ大殿は、空広を誘ってピキヤズへ漁に向かいました。

この日の漁はとても大漁で、大殿は空広の知恵を試そうと考え、「お前が今日の魚玉をうたせてみよ」と命じます。

「魚玉をうたす」と、獲れた魚を人数分に配分することで、空広は瞬く間に手際よく公平に配り終えました。

空広の聰明さに大殿は感服し、それからは自分の子どものように空広を可愛がって教育を施し、やがて政務を手伝わせるようになりました。

こうして大殿の元で養育を受けた空広は、のちに大殿の後継者として島を治め、仲宗根豊見親と呼ばれて広く人々に敬われるようになりました。



大立大殿みやーか



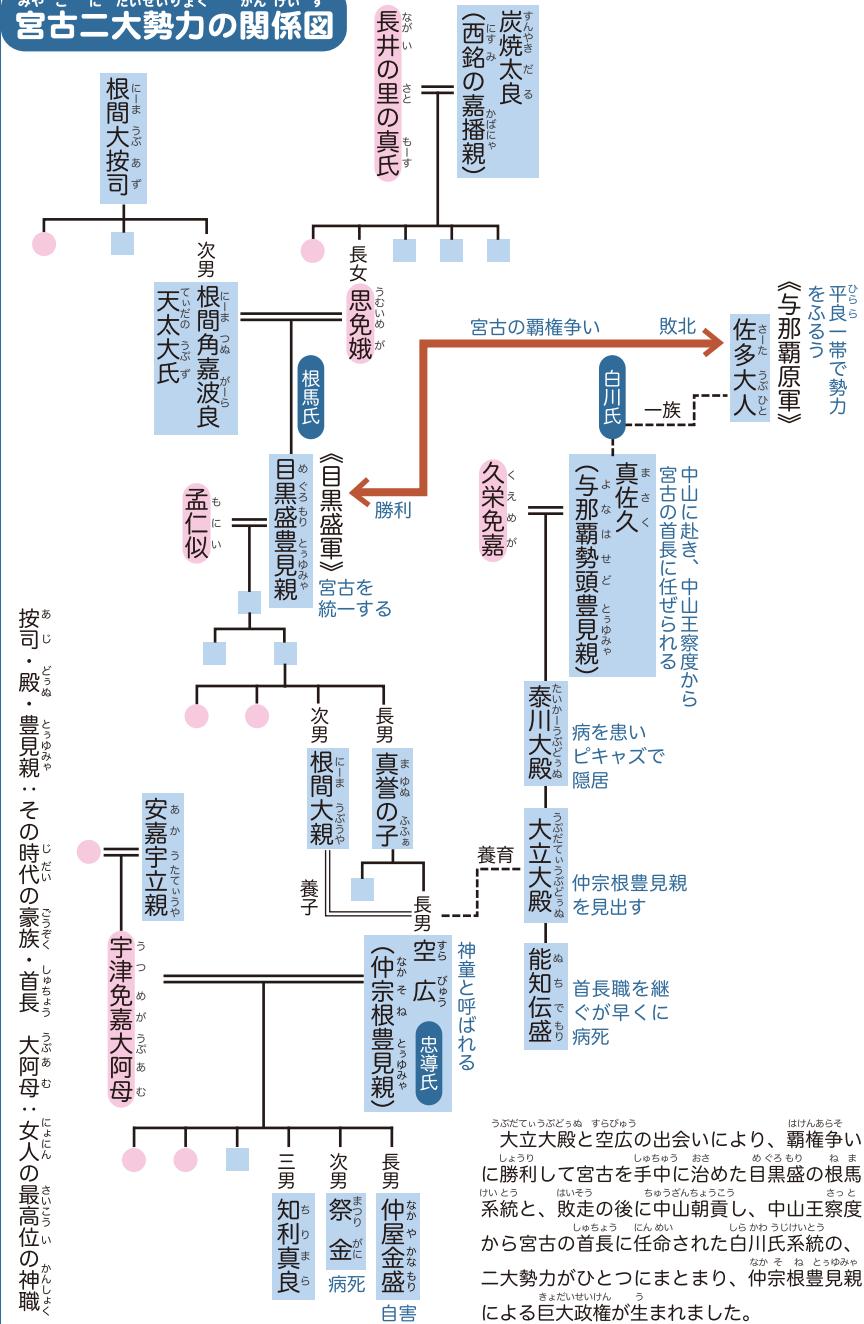
八重山博物館所藏：1937年大島廣(南西諸島資源調査団員)撮影

うぶだいとうぶどうぬ きょせき ぼ せい き こう はん しゅちょう
大立大殿みやーか(巨石墓)は、15世紀後半に宮古島の首長
つと はか い つた
を務めた大立大殿の墓と言い伝えられています。大立大殿は
はじ ちゅうざん ちょうこう よな はせど とうゆみや まご
1390年に初めて中山に朝貢した与那霸勢頭豊見親の孫にあた
り、のちの仲宗根豊見親となる空広を育て上げました。

かつては海岸の崖のそばに造られて
いましたが、埋め立てと道路拡張に
よって墓の周辺が削り取られたため、
今の形で残されています。

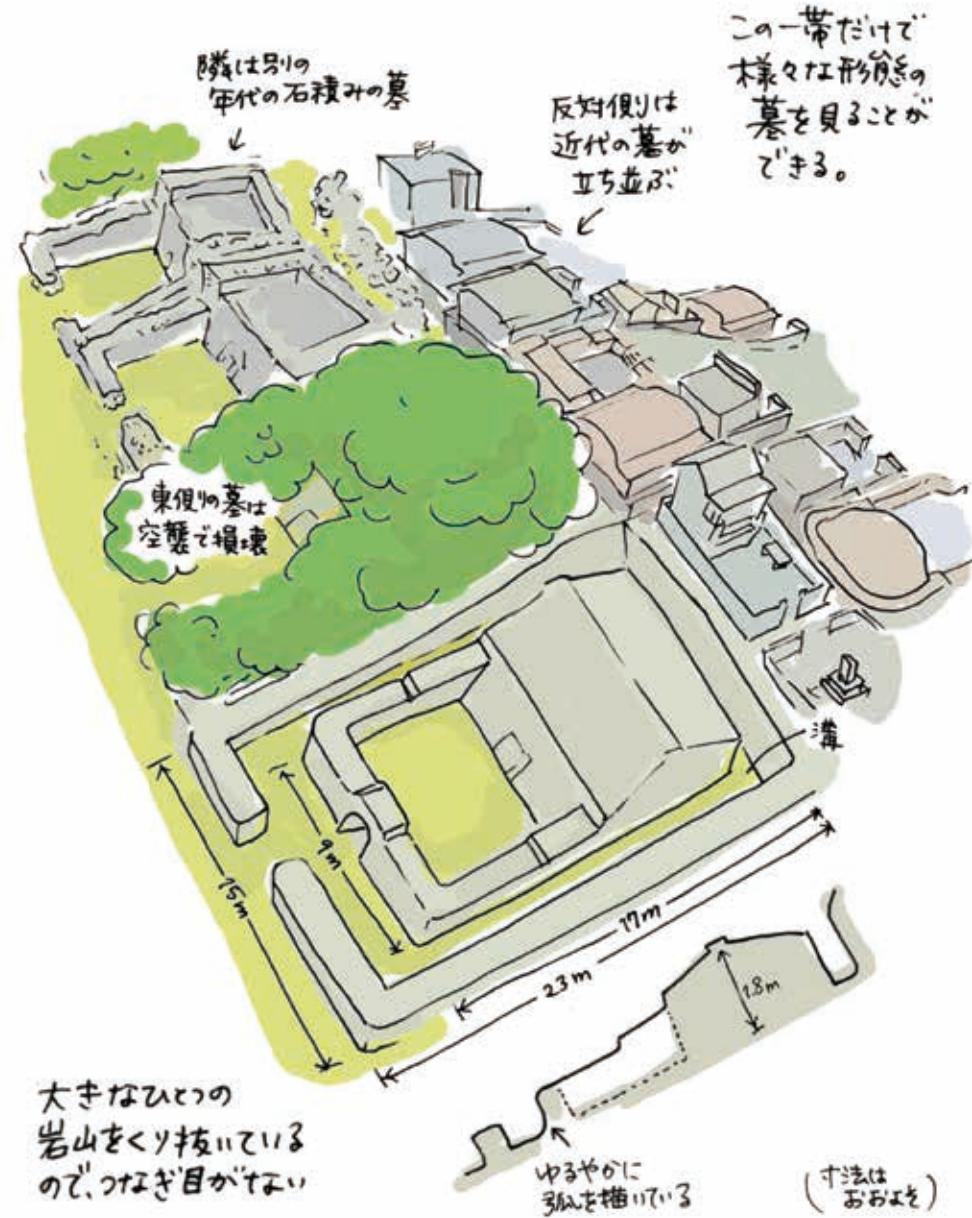


みやこにだいせいりょく かんけい図 **宮古二大勢力の関係図**



にし ばか
西ツガ墓

西ツガ墓は、多くの頭職を輩出した、益茂氏一門の墓です。岩盤を削り出して造られているため、墓の入口もアーチ状にくりぬかれ、岩につなぎ目が存在しません。「ツガ」とは升を意味し、墓の周囲を掘り下げて真四角に造られていることから、墓名の語源とも言われています。また、東隣にも同様の規模を誇る墓がありましたが、こちらは先の大戦の空襲によって破損してしまいました。この墓の周辺には多くの墓が密集し、墓の作られた年代などによって、様々な墓の形態を見ることができます。

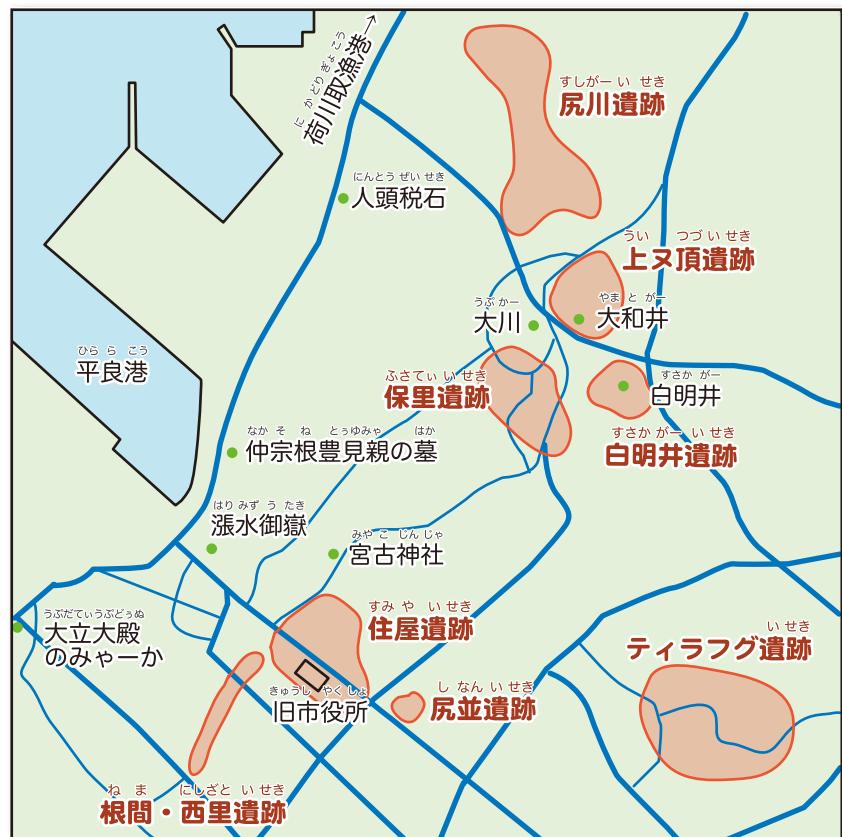


しゅうへん いせきぐん 周辺の遺跡群

宮古では1981~82(昭和56~57)年にかけて沖縄県教育委員会による遺跡分布調査を実施し、表面踏査による調べで85か所もの遺跡が確認されています。また近年の土地開発に伴い、新規の遺跡も数多く発見されております。

平良市街地や松原・久貝周辺は古くから人々が生活しており、埋蔵文化財が残されている可能性が非常に高い地域です。遺跡の表面に土器片や陶磁器片が散布していることが多いため、散策時に気にして歩くと、よりコースを楽しめるでしょう。

※遺跡内の遺物を持ち帰ることは法律で禁じられています。



まつ ばら く がい ひさ まつ 松原・久貝(久松)



しもじまぎりそく まつばらむら うるか
下地間切に属していた松原村と、砂川間切に属していた久
がいむら みいじ しこう とくべつちょうそんせい
貝村は、1908(明治41)年に施行された特別町村制によって、
ひらら あざおか
平良村の松原・久貝という字に置き換えられました。

ちいきめい した ひさまつ
地域名として親しまれている「久松」は、1898(明治31)年
せつち じんじょうしょうがっこう ぶんきょうじよ のち
に設置された、平良尋常小学校久松分教所(後の久松小学校)が
はじまりと言われています。

ふる ぬさき よ
また、この地域は古くから「野崎」とも呼ばれています。

ぬさき まつばら くがい いらぶ かんけい 野崎と松原と久貝と伊良部のおもしろい関係

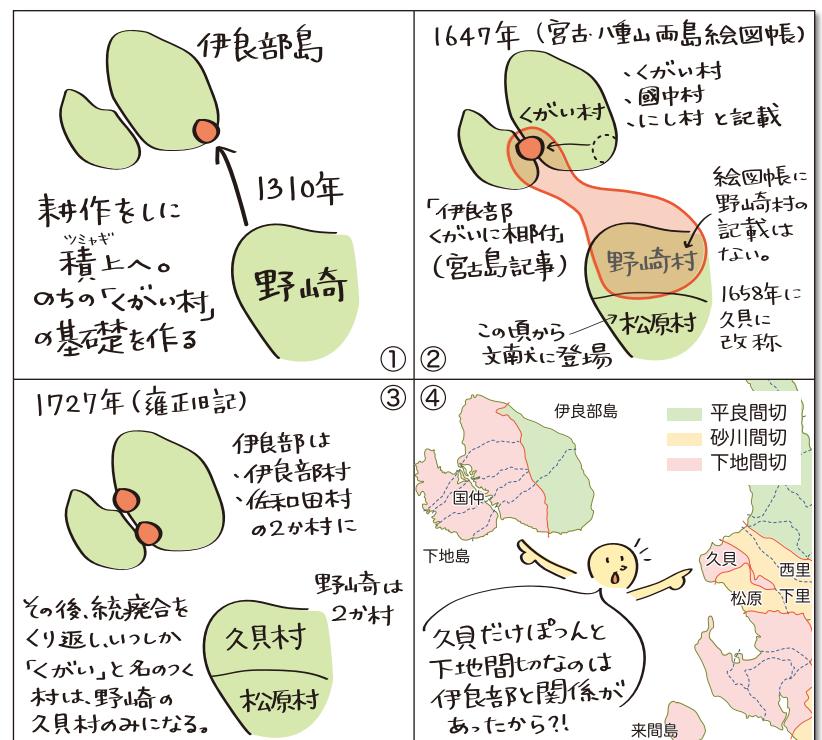
もともと いま ひさまつ よ ちいき
元々、今の久松と呼ばれる地域
には「野崎」という集落があり、伊
らぶそんし しゅうらく い
良部村史によると、1310年頃に野
崎から伊良部に渡り、土地を耕
し、のちの「くがい村」となる基礎
を作ったと記されています。

また、『宮古島記事(1752)』に
よれば、野崎村は伊良部の「くがい
じんこうそうか
村」の人口増加にともない、野崎の

ゆんちゅ お な
久貝に与人を置き、「久貝村」と名
あらたを改めたとあり、その年は1658年
であると『球陽(1745)』に記され
ています。

「久貝村」の村立後は、元々あつ
た松原村と合わせて野崎2か村と
して記されるようになり、現在で
も両集落を総称して「野崎」と呼
んでいます。

まつばら くがい
松原・久貝
(久松)



まつばらくがい 松原・久貝散策マップ

NAT

距離：約 2.4 キロ
所要時間：1～2 時間

宮古室跡

ミヌスマ遺跡の井戸 P54
ミヌスマ遺跡 P55

カーンミ御跡
久貝の公白イエ
祭祀・神願いの行跡

ウプザー
(シムヌ主) 御嶽 P52

クジナ(久知名) 御嶽 P53

まつ
松原

スキラニーズ
マダニアーズ御嶽 P58

与那嶼湾

西浜島

東門島

久貝島
島の
七人兄弟
3.4 番

多良南島
石垣島

まつばら
くがい
(久松)

まつばら
ししま
松原の獅子舞い
(シーシャ) P44

ひさまつ
かいじんさい
久松の海神祭(ハーリー) P42

ひさまつ
ごゆうしけんしょうひ
久松五勇士顕彰碑 P46

く
がい
久貝

久松みやーか
(巨石墓) 群 P50

ウプドマーラ
(大泊) 御嶽 P48

1962 年の海岸線 (参考: 国土地理院)